われもこう 第22号

2007年1月26日 発行

この冬、早くからふくらみ始めたコブシのつぼみ。
それは、温暖化のせいでしょうか。
イノシシや人の手で、掘り返される草花たち。
軽井沢という地に選ばれて、
はるか昔から生き続けてきた植物たちにも、
つらい時代が来ているのかもしれません。
でも自然は、私たちが思っているよりずっと強くて、
しっかり命の火を燃やし、春が来ればきっとまた
美しい緑の葉と、可憐な花々を、
咲かせてくれることでしょう。
「われもこうの会」は、
そんな草花たちの命をつなぐお手伝いを
していきたいと思っています。

軽井沢の樹木　―ドングリの木― ……p.2

軽井沢風土フォーラム

第１回講演会報告と第２回のお知らせ ……p.3

軽井沢の貴重な植物　―スズムシソウ― ……p.7

軽井沢の樹木 ―どんぐりの木―

星野 裕一

針葉樹、広葉樹、落葉樹、照葉樹。数多くある樹木の中でも、自然界にとって非常に大きな存在とも言えるブナ科（どんぐりの木）の集団をご紹介しましょう。

ブナ科には、ブナ、クヌギ、クリ、カシの仲間、そしてコナラ、カシワ、ミズナラ等があります。その中で常緑照葉樹のカシは、軽井沢にはありません。ブナは軽井沢にもごく稀に見かけますが、雪深い山野を好むブナにとって、軽井沢は適地ではないようです。

コナラ、クヌギは、標高が千mに達しない比較的暖かい土地を好み、特にクヌギは、御代田より低い地に多く見かけます。軽井沢は、標高の低い所はコナラ、高くなるにつれて、ミズナラが多くなります。その違いは、「どんぐり運動の会」で各学校で拾ってもらうどんぐりにも表れています。

ところでミズナラですが、日本全土の冷涼の地に生え、高級家具材やウイスキーの樽、古くは船を建造する材として使われてきました。オーク材というのは、実はミズナラのことだといわれています。軽井沢の中で一番古くから存在していた樹木の一つと言っても過言ではありません。町内の主だった神社、人の手の入らない国有林の一部、熊野神社周辺等、かつてはミズナラが、浅間高原を圧倒的に支配していたということがわかります。また、軽井沢野鳥の森の一角には、今でも炭焼きをしたなごりの窯が崩れたまま残っていますが、炭焼き用の材として優秀なミズナラが、昔は豊富にあった証なのです。

ブナ科の樹木が、自然界にとって大変重要な理由の一つは、その保水力です。ブナの大木一本は、水田一反歩（約千㎡）の水を生み出し、針葉樹の三～七倍の水資源を生み出すという説もあります。

また、ブナ科の木の実のどんぐりは、野生動物の貴重な栄養源になってきました。昨年のどんぐりの不作は、ツキノワグマにとって一大事件だったのです。

ミズナラは大変大きくなる木なので、残念ながら皆さんの家の周りに植えることはおすすめできません。ミズナラ、コナラ、トチノキ（トチノキ科）は国有林へ植え、樹皮が厚く火災に強いカシワを家の庭に一本植えることをおすすめしたいと思います。

軽井沢サクラソウ会議 主催

軽井沢風土フォーラム

第１回講演会に参加して

軽井沢町の高山植物が約1,000種、尾瀬が約700種。軽井沢町が、尾瀬にも勝る野草の宝庫だったということは、とても驚きでした。

保養地軽井沢としての町制１２０年が語られることの多い軽井沢ですが、軽井沢にはもっとずーっと長い歴史があり、その文化や自然の中に、新しい軽井沢の宝物を見つけ出すことができるかもしれない。そんな期待を抱かせてくれる「軽井沢風土フォーラム」が始まりました。

第１回（1/14）は、「私見・軽井沢の風土」江川良武氏（地理研究家）、「サクラソウの原産地？軽井沢」本城正憲氏（東京大学　生物多様性･生態系再生研究拠点特任研究員）のお二人でした。

冒頭のお話は、江川さんがはじめに語られたことですが、そのわけは、軽井沢は、氷河期から今日まで、森林化せずに疎林状の原野、湿原が保たれ、陽光が十分に降り注いでいたからだそうです。また浅間山の噴火による土石流が堰を作り、湖沼が多いのも軽井沢の特徴です。原野は、下草狩り、野焼き、馬の放牧地など、人の手も加わって守られ豊かな生活の場にもなってきましたが、原野も森林と同じような炭酸ガスの固定力があり、自然度が高いことを知ったのも驚きでした。

さらにもう一つ、軽井沢の街道の歴史が今日にも尾を引いていて、これからもっと勉強していかなくてはいけないということも教えられました。

本城さんの話の中で印象に残ったのは、やはり氷河期から今日まで、軽井沢は、サクラソウが育ちやすい条件がそろっていて、日本有数の自生地であったということです。そして、日本に30種ある遺伝子のタイプのうち、7種類が確認できたというのも貴重なことだそうです。東京からはとっくに消え、全国に数箇所しか残っていない、絶滅危惧種にもなっているサクラソウの自生地。50年前、子供たちが両手に抱えられないほどのサクラソウを摘んでいる写真が残っていますが、町のあちこちで、ピンク一面のサクラソウの光景を、軽井沢だからこそきっとまたよみがえらせることができる。そんな希望が持てる会でした。　〈H〉

次回の軽井沢風土フォーラムは

〈日時〉２月１８日（日）13:30～15:30　〈会場〉中央公民館　講義室

講演１：「軽井沢の気候」　井口泰志氏　軽井沢測候所職員

講演２：「軽井沢の野生動物―外来種問題」　福江佑子氏　ＮＰＯ法人ピッキオ調査員

※参加費300円（資料代）　軽井沢サクラソウ会議会員は無料

会員の声

2006年をふり返って…

●野草と、野生動物

今の我が家に引っ越した翌年、はりきって作った野菜が、ごっそりとサルたちのご馳走になり、思い切って電気柵で囲みました。

椎茸をたまにかじられるぐらいで、何とか無事に過ぎていたのですが、昨年から、花を植えた庭のあちこちを、イノシシやサルにかき回されるようになりました。そしてこの夏、毎夜出没するイノシシは、ミミズだけでなく、大事な野草の根を、根こそぎ掘り出して食べてしまったのです。昔の家から三本だけ持ってきたヤナギラン。庭の一部をピンク色に染めるまで増え、とても喜んでいたのです。一日で、大きな穴とともにピンクは消えました。イノシシは、ワレモコウやユリの根も大好きのようでちゃんと選んで掘り返します。今年は、草むしりの意欲も、楽しみもなくなってしまいました。

軽井沢に住む喜びの一つに、庭で野草を育てたいという人がたくさんいます。

私は、野生動物とは共存したいと思っているのですが、昔母が「タヌキにもろこしをやられちゃったわ」と笑っていた頃と違う異常事態に陥っているように思います。

すでに軽井沢の夏の風物詩だったヤマユリは消えつつあります。人の命や、生活をおびやかすクマや、シカの被害もあわせて、本当に何とかしてほしいと切実に思う今日この頃です。

朝子

●ブタクサ！

ブタクサが勢いよくはびこり始めるのが目につき、犬の散歩がてら毎日ハサミで芽をチョッキンチョッキン。が、後日横芽が伸び、みごとな大株に。根こそぎ抜こうと頑張ったけど一日でブタクサに降参でした。

山崎

●美味しいハイキング

十一月の上旬、会員数名で横川駅からメガネ橋までの碓氷峠ハイキングに行きました。目的地まで約1時間半、天気良し、紅葉良し、美味しかった釜飯、とっても楽しい1日でした。ガイドの栗岩さん、ありがとうございました。

YY

●来春の楽しみ

「われもこう」の名を初めて知ったのは箱根の植物園であった。茶褐色の大豆のような物が、寂しげにポツンポツンと付いている妙な姿が印象的であった。しかも、派手さが売り物のバラ科であり豆のような物が花であるとはにわかには信じがたい事であった。ましてや「われもこう」なる名前が植物の姿形からは全く想像も出来ず、名前を覚える事すら困難であることから我が家ではこの植物を「われもこそう」と呼んでいる。

さて、秋田に一人で暮らす母が山野草キチで、私の転勤に合わせて北海道から九州まで土地の山野草店を歩くのが大好きであった。手に入れた苗は秋田の庭で見事に増え続けており、ご近所の皆さんに分けられている。「分けてあげても上手に花を咲かせる人もいれば、何度やっても枯らしてしまう人もいるのよね。要は気配りなのよ・・」と言われると、シンパクを秋田から軽井沢に移植しようとする私の手の力が鈍るのであった。

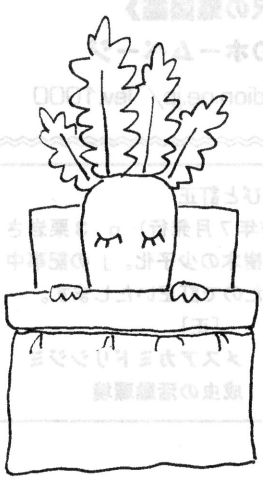
軽井沢の我が家の庭は、実験場である。前任地の千葉は植木の産地であり、草本類の植木の種類も多い。手当たり次第に移植したが、気候が全く違う中でどれだけの種類が生き残れるか。われもこう会員の皆さんから今年頂いた沢山の種子の発芽に混じって、房総や秋田の植物にどれだけ再会できるかが楽しみである。

大槻　幸一郎

●冬ごもり

私の道楽畑も来春に備え眠りの季節に入りました。土の恵みを楽しく食べ続けた一年でした。いやいや、まだ現在形…、むろの中ではじゃが芋も大根も静かに息をしています。今年は小豆、青豆、黒豆、名前の分からない白い豆や赤い豆…冬用にしっかり蓄えることができました。眺めているとかわいくてなかなか食べられません。『一粒ぁ千粒、千粒ぁ万粒…』昔話のじいさまの声が聞こえてきます。土と太陽が生み出す命に感謝の冬ごもりです。

SS



中部小学校
軽井沢自然クラブの感想。

栗岩　竜雄

まず率直な感想からひとこと。とにかく楽しかったです。今年度は昆虫に関心のある子供が多く、写真や標本の説明、そのほか昆虫関連の話題をしっかり聞いてくれて、話す方としてはとても嬉しく思いました。表情を見ているとみんな活き活きしていて、あらためて私自身も勉強になることがあり、充実したクラブ活動だったと実感しています。昨年度要望した校外へのバスハイクも二回ほど実施して頂き、関係する方々のご尽力にも感謝しております。残念だったのはそのバスハイクが二回とも雨で、こちらが期待していた自然散策が充分に行えなかったことでしょうか。それでも普段学校の中だけでは味わえない世界を感じてくれたかな？と、決して無駄ではなかったことを望んでいます。

そもそも自然クラブの講師は「われもこうの会」が請け負ったものですが、私からの要望を聞き入れて頂いた場面も多く、その点でも感謝しております。私が昆虫に興味を持ったのは小学生時代のクラブ活動がきっかけでしたので、その当時と気持ちが重複してしまい、つい熱が入ってしまったようです。クラブの時間は年間十回と限られているようですので、来年度以降もこの話があるなら、もっとしっかりカリキュラムを組んでおきたいと思いました。

＊　＊　＊

栗岩さんは、軽井沢自然クラブの子供たちに「蝶ちゃん、蝶ちゃん」と慕われていて、クラブ活動に参加した会員にとっても、とても頼もしいリーダーでした。一年間ありがとうございました。

《軽井沢の蝶図鑑》
栗岩さんのホームページ
http://www.h2.dion.ne.jp/~lev.1000

会員募集中！

われもこうの会の原っぱで野の花の世話をしたり、小学校のクラブ活動に参加したり。地域社会で何かできること、やりたいことがあなたにもあるはず。時間はないけれど、われもこうの会の活動を応援したいという方もぜひ入会して下さい！

年会費2,000円
65歳以上または18才未満500円

われもこうの会事務局 TEL46-2505

お詫びと訂正

われもこう第21号（昨年７月発行）ｐ．３栗岩さんの「森林の高齢化、樹木の少子化。」の記事中２箇所脱字がありましたので訂正いたします。

［誤］	［正］
スアカミドリシジミ	メスアカミドリシジミ
成虫動環境	成虫の活動環境

～＊農地はビオトープ＊～

飯島町が試みる自然共生農場計画

伊那谷の中央部に位置する飯島町は、稲作、果樹、花卉栽培が盛んな農業の町です。しかし、広い平野部がほとんどなく、大規模な農業にはむいていませんし、農業者の高齢化も進み、山際の耕作が難しい場所では、休耕地化する農地も目立ってきています。

そんな飯島町ですが、これからも持続的に農業を営んでいくために、ある新しい政策をとりました。町中の農地を自然と共生する場とする、「1,000ha自然共生農場計画」です。具体的には、農薬を減らし化学肥料を使わない農地で作物を育て、耕作が難しい農地は生き物が棲みやすいようなビオトープとして管理していくというものです。

飯島町は軽井沢町とは違って、湿地と呼べるような場所はもともと多くありません。しかし、稲作という人の営みが広まっていくうちに、町じゅうの田んぼでカエルやドジョウや水生昆虫などが数多くはぐくまれていきました。それらを復活させ、農産物のイメージアップをはかろうとする試みは、町の経済のためではありますが、率先して実行している人たちは、生き物に深い愛情をそそぐ農家の方々です。

軽井沢サクラソウ会議顧問
中村千賀（旧姓中野）

●軽井沢の貴重な植物

スズムシソウ（ラン科）　花期7～8月

かつての軽井沢には野の花が咲き乱れ、貴重な野生蘭も沢山自生していました。スズムシソウも南軽井沢の林の中によく見られたそうですが、最近では殆ど目にすることが出来なくなりました。

花茎は高さ一〇～二〇cm、紫褐色の花は昆虫のスズムシの羽そっくりで、優雅な佇まいのランです。同属のクモキリソウは淡緑色の小さな花で、今も時々見ることがありますが、個体数は減っています。

スズムシソウが林のどこか人目につかない所でひっそりと生き残っていてくれることを願うばかりです。

われもこうの会

2006年度総会のおしらせ

＜日時＞　２月２５日（日）　午後１時１５分～２時３０分

＜会場＞　軽井沢町中央公民館　１階　講義室

◆午後１時集合。会場準備をお願いします。

◆総会終了後、同じ会場で講演会があります（下記参照）。
こちらも是非ご参加下さい。

町づくりに参加しよう！

講演会のご案内

**「地方分権時代の町づくりと
地方議会・住民・行政の役割」**

講師　大森 彌（わたる） 先生
元　東京大学・千葉大学教授（行政法）

＜日時＞　２月２５日（日）
午後３時～５時
＜会場＞　軽井沢町中央公民館
１階　講義室

主催：軽井沢サクラソウ会議
後援：軽井沢町議会

参加者募集

カカシを作ってコンテスト！

日時＊３月４日（日）午後１時より
場所＊悠遊ブルーベリー園
（発地 ホタルの里駐車場に集合）

参加費無料。ビニールハウス内で作業しますので雨天決行です。

〈持ち物〉　ぼろ布、古ストッキング、古着、毛糸、針と糸、ハサミ、針金ハンガー、ペンチなど。
使えそうな物をお持ち下さい。

作ったカカシは、夏、ブルーベリー園の来園者による投票で、ベストドレッサー賞を決定。親子で参加して賞品をＧＥＴしよう！

—参加申込・お問合せは—
われもこうの会　山崎まで
Tel&Fax/48-1777

ホームページもご覧ください
http://www.h5.dion.ne.jp/~waremoko/

発行/われもこうの会　　事務局　TEL・FAX/　0267（46）2505